

新年明けましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素は小諸市政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私が市長に就任して8年目に入り、2期目の任期も残すところ3カ月余となり、2期目の任期も残り、浅間山の小規模噴火や令和元年東日本台風といった災害、新型コロナウイルス感染症への対応といった大きな困難もありました。

特にコロナ禍においては、市民の皆さまにはワクチン接種への協力や新しい生活様式への対応、商工会議所の皆さまによる飲食店や事業者支援の取り組みなどをお願いし、おかげさまで非常に厳しかった状況を乗り越えることができました。

また、ふとまつりや小諸市民まつりの復活、秋灯り小諸やこもろふれ愛フェスティバル、まちタネ広場や公園での各種イベント等々、この数年、市民主体の活動が小諸を盛り上げていることに感銘を受けております。こうした市民の皆さんの頑張りとあって、小諸市は大きく変化してきていますと感じております。

その裏付けとなる一例として、東洋経済新報社の「住みよさランキング」をご紹介いたします。このランキングは、毎年6月に全国の市と特別区の812市区を対象に、自治体ごとに住みやすさの指標により順位付けを行っているものです。

小諸市は市長に就任した2016年に全国374位でしたが、その後大きく順位を上げ2022年は33位、さらに2023

年は25位（県内2位）となっております。評価ポイントには「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」に分類された20項目による評価ですが、すべて各種公的機関の統計情報や東洋経済が独自に入手した最新データなど公的な数値により客観的に「住みよい街」と評価されたことは大変喜ばしいことであり、今後の移住事業の弾みになるものと考えています。

《移住者の増加》

人口減少社会は経済規模を縮小させ、就業機会の減少、行政サービスの低下や社会インフラの老朽化、地域コミュニティを低下させるなど日本全体で問題となっております。

小諸市でも人口は、2000年の4万6千人余をピークに減少を続けており、現在は4万1千人を下回っています。国立社会保障・人口問題研究所によると2040年頃には3万2千人にまで人口が減少すると推計されています。

8年前の2016年は、亡くなった方の数が生まれた方の数を上回る人口の自然減が221人、小諸市から転出した方の数が転入した方の数を上回る人口の社会減が136人で、1年間で357人の人口減少でした。

この間、企業誘致に力を入れ、子育て支援策を他市に先駆けて実施したり、移住施策のためオンラインや首都圏で開催する移住相談会のほか、国内最大のログハウスメーカーと連携協定を締結するなど全力で取り組んできました。その結果、社会増に転じ、2021年はプラス16人、2022年は10倍のプラス167人となりました。そして2023年は、本稿執筆現在の11月末ま

での途中経過ですが、3077人の社会増となっております。人口減少も11月末現在で54人と確実に人口減少に歯止めがかかっている状況であります。今後も子育て施策のさらなる拡充や、若者世代の移住者を増やす事などで人口の自然増に向けて、取り組みを強化してまいります。

《賑わう小諸》

小諸市ではコロナ禍であったにもかかわらず新たな出店が相次いでおります。中心市街地を中心に、30店にもものぼる新規出店は、いずれも個性豊かな店舗であり、人気を集め既存の店舗と相まって街の魅力を高めています。

また昨年は郊外の飯綱山公園に、県内初となる民間の資金とアイデアで施設を整備し、公園の一部も維持管理を行う「パーク・ピーエファイ」方式でワイナリー・ショップとレストランが完成しました。

飯綱山公園には、美術館と動物愛護施設といった施設があるほか、1千500本を超える桜が植樹され、眺望が良く遊歩道が整備されていること、また、市外からのアクセスも非常に良い立地にあるため、開業した施設と相まって市内外から多くの方が訪れる人気ス



スタラス小諸でのイルミネーション



小諸市長 小泉俊博

ポットになっていきます。そしてもう一つ、昨年11月に大手門公園内にある旧小諸本陣主屋の建物を活用した店舗がオープンしました。

旧小諸本陣主屋は、北国街道の小諸宿の本陣として参勤交代では加賀藩前田候などの大名が利用した由緒ある建物で、都市公園内に移築後、資料などを展示する教養施設でした。この度、長野市の善光寺門前にある旧本陣で飲食業を営む事業者によって、レストランとして活用されることとなりました。

往時の造りを活かしつつ、良い雰囲気デザインされた空間となっておりますので、皆様の日々足を運んでみてはいかがでしょうか。

《結びに》

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた実り多き年になりますようご祈念申し上げます。

さらに住みよく、賑わい、魅力のある小諸となるように 明るく、緊張感のある、一丸となれる議会を目指して

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には、夢多き新春を健やかに迎えたいと心からお慶び申し上げます。

年頭に当たり、小諸市議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

私、昨年2月の臨時会におきまして議長となり、初めての新年を迎えております。議長就任以来、市政の進展と円滑な議会運営に微力をささげてまいりましたが、この間、市民の皆様からお寄せいただいた、温かいご指導やご厚情に対し心より感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症対応での日常生活も丸3年が過ぎたなか、昨年5月8日から5類感染症に移行となり、大きな転換期を迎えたと感じています。ウィズコロナでの社会経済活動の正常化の各種の取り組みが進められることとなりました。生活のあらゆる場面で制限から、コロナ禍を乗り越え、新しい社会づくりが求められています。

まずは、エッセンシャルワーカーの皆様には、今も対応をいただいておりますこと、また、この間、市民の生活を支えていただきましたこと、心からの敬意と感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化により、エネルギーや原材料価格の高騰が続く、記録的な物価高による日常生活への影響が続い

ています。このようななか、社会・経済活動の正常化には、いまだ厳しい状況が続いており、直ぐに回復することは難しいことと思っておりますが、引き続き、国を挙げての各種支援策を強く要望していくとともに、議会としましては行政と一丸となって、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

《選ばれるまち」となるように》

さて、市政におきましては、少子高齢化による人口減少社会が進展するなか、「小諸市学校再編計画」が昨年7月に策定されました。市議会では、「小中学校の改築・再編に関する特別委員会」により、児童生徒にとつて、市民にとつて、未来ある再編計画であるのかを、議会の立場からしっかりと調査検討を行い、住民説明会の開催など申し入れを行ってまいりました。芦原中学校区の統合小学校の基本計画の策定にも、しっかりと意見をまいります。

また、持続可能な自治体を目指し、市内外の方から「選ばれるまち」となるため、民間活力の導入による「スタラス小諸」のオープンや小諸宿本陣主屋を活用したレストランのオープンなど、官民連携での事業推進による活力あるまちづくりを支援する一方、基礎自治体としての市民の皆様と直結する、子育て支援策、生活基盤整備、脱炭素社会づくり、そして、誰もが健康で支え合う地域共生社会づくりに

は、議会としての立場から各種施策・事業をしっかりと把握し、市政運営のチェックを行ってまいりたいと考えております。



小諸本陣主屋を活用してオープンした「KOMORO HONJIN OMOYA」

《信頼され、見える化された市議会へ》 市議会では、昨年1月に市議会議員選挙が執行され、現職15名、新人8人の23人が立候補し、8年ぶりに選挙戦となり、昨年2月1日から、小諸市議会第19次となる市議会がスタートしています。初当選議員が5人、うち4人が女性議員の総勢19人による新体制となっております。

市民に信頼される市議会、市民に見える化された議会運営を進めなければならぬと考えており、様々な市議会の課題に關しましては、議長諮問として、「明るい議会、緊張感のある議会、議員が一丸となれる議会を目指す」をスローガンに11項目を掲げ、取り組みを進めてまいります。



小諸市議会 議長 丸山正昭

《活力ある小諸市を目指して》 結びに、全議員が、議会としての果たす役割・責任を十分認識し、市民の皆様とともに、活力にあふれる魅力ある小諸市を目指してまいりますので、これからも更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、市民の皆様方の今年一年のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。